岩手大学震災復興推進レター

「岩手の復興と再生に」オール岩大パワーを

vol.40

発行者
国立大学法人
岩手大学
総務企画部総務広報課
〒020-8550
岩手県盛岡市上田3-18-8
TEL 019-621-6015
FAX 019-621-6014
E-mail kkoho@iwate-u.ac.jp

平成27年4月30日発行

http://www.iwate-u.ac.jp/koho/fukkouletter.shtml　岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

機構長から挨拶

3月16日から岩手大学三陸復興推進機構長となりました。

被災地では今なお様々な問題を抱えている方が数多くいらっしゃいますが、一方では時間の経過とともに震災の記憶の風化が懸念されています。

そのような中、機構長に就任する前の1月に開催された「岩手大学三陸復興推進機構シンポジウム」に出席した際、出席者の方から本学が震災復興のために果たす役割について力強い後押しのコメントをいただき、復興推進に向け邁進していく気持ちを強くいたしました。

3月に仙台で開催された国連防災世界会議では、本学の三陸復興推進機構が横断的に被災地の復興に向け取り組んでいる活動が評価されました。

三陸復興推進機構の事業は、復興予算や寄附金で支えられていますが、平成27年度をもってほとんどの事業の予算措置が終了することになっています。しかし、ここで活動を途切れさせることなく継続させ、復興を推進していくことが肝要と考えています。

皆様からご理解いただけるよう真摯に活動に努めてまいりますので、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

岩手大学三陸復興推進機構長
八代　仁

「SANRIKU(三陸)水産研究教育拠点形成事業報告会」を開催しました

3月21日、岩手大学復興祈念銀河ホールにて「SANRIKU（三陸）水産研究教育拠点形成事業報告会」が開催されました。

本報告会は、岩手大学、東京海洋大学、北里大学が連携して、従来の水産業に科学的根拠に基づく付加価値を加え、水産業の高度化や三陸水産品のブランド化を目指し取り組んでいる「SANRIKU（三陸）水産研究教育拠点形成事業」の研究成果の報告会です。

三陸沿岸の山林、河川、農地等と湾の環境研究を行う「水圏環境調査班」、安定かつ計画的な養殖を可能とするための養殖技術の高度化を行う「水産・養殖班」、新鮮な魚介類を高品質な加工品（Made in SANRIKU）にする技術開発を行う「水産新素材・加工技術・加工設備開発班」、（Made in SANRIKU）のブランド化を構築する「マーケティング戦略班」の4班の活動報告を行いました。

また、効率的に研究を推進することを目的としてテーマを絞り、平成26年度に新たに立ち上げた「サケ」、「ワカメ」、「陸上養殖」の3つのワーキンググループの活動報告も行いました。

今回はポスターセッションも行い、3大学の研究者が直に来場者に研究成果を説明する機会を設けました。成果品の展示もしており、来場者からの質問に研究者が答える姿も見られました。

会場の参加者からは、本事業が平成27年度で終了するため、終了後の展開を望む声もあがり、岩渕岩手大学長は継続していくためにも周りの皆様にご協力いただきたい旨訴えかけました。

三陸の水産業の復興を図るという当初の目的を達成できるよう、今一度気を引き締めて取り組んでまいります。

プログラム

■**事業の概要説明**（岩手大学　教授　三浦 靖）

■**各班成果報告**
水圏環境調査班（岩手大学　教授　竹原 明秀）
水産・養殖班（岩手大学　准教授　梶原 昌五）
水産新素材・加工技術・加工設備開発班（東京海洋大学　教授　鈴木 徹）
マーケティング戦略班（東京海洋大学　教授　和泉 充）

■**ポスターセッション**

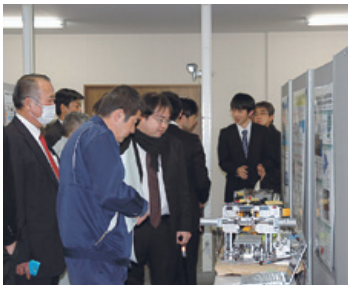
■**各ワーキンググループ成果報告**
サケ連携ワーキンググループ（岩手大学　特任教授　阿部 周一）
ワカメ連携ワーキンググループ（北里大学　教授　渡部 終五）
陸上養殖連携ワーキンググループ（東京海洋大学　助教　遠藤 雅人）

■**全体総括**（愛媛大学南予水産研究センターセンター長／岩手大学三陸水産研究センター　客員教授　山内 晧平）

竹原岩手大学教授
（水圏環境調査班）

和泉東京海洋大学教授
（マーケティング戦略班）

渡部北里大学教授
（ワカメワーキンググループ）



ポスターセッションの様子

国連防災世界会議

3月14日から18日にかけて仙台で開催された第3回国連防災世界会議に岩手大学地域防災研究センターも参加し、防災に関するフォーラムや展示を行いました。

岩手大学主催のフォーラム「地域社会のレジリエンスとキャパシティ・ビルディング−被災地での岩手大学の実践と検証−」では岩手大学がこれまで取り組んできた緊急対応、地域コミュニティの再生、防災教育・研究、なりわい再建の支援、防災・危機管理人材育成プログラムの開発に関する実践活動の報告を行いました。パネルディスカッションでは復元力のある地域社会づくりについて意見を交換しました。フォーラム参加者及び来場者とともに被災地にある大学の役割について議論・共有する機会となり、岩手県の潜在力を活かした取り組み、被災したコミュニティの再建、復興の現場における若者や女性の参画、多様なステークホルダーの連携、市民がリーダーとなった持続可能な開発、地域を担う人材育成の重要性などが確認されました。

フォーラムで挨拶を行う岩渕学長

会期中はスライド・ビデオ、防災教育関連グッズ、震災映像資料の展示を行い、地域防災研究センターの研究成果を紹介し、子供から大人まで国内外の方にご覧いただくことができました。

また、阪神・淡路大震災を経験した神戸大学、東日本大震災の被災地にある東北大学、岩手大学による被災大学間連携シンポジウムでは、アチェ津波のシャクアラ大学、四川地震の四川大学など、海外の大学も参加して開催されました。各々の活動報告を受け、震災復興における大学の役割について意見交換が行われ、住民主体の震災復興および継続した取り組みの重要性などが確認されました。

今後も本学で取り組んでいる防災教育・研究活動を発信し、三陸沿岸から日本、そして世界にも貢献できるよう努めてまいります。

フォーラム会場の様子

来場者の方に展示を説明している様子

釜石サテライトだより

厳しい冬もようやく過ぎ、レンギョウ、梅、桜など、カラフルな春の色が釜石市内に一斉に広がりました。

これから行楽シーズンが本格化しますので、是非、釜石にお越し下さい。

さて、最近の釜石サテライトの活動状況について報告します。

●釜石市内の漁協女性部の活動支援について

岩手大学では、釜石市からの委託を受け、昨年度「魚のまち」釜石モデルアクションプランを策定したところでありますが、そのプランの実証事業の一環として、この度、漁協女性部による首都圏PRイベント「かまいし浜のごっつぉでおもてなし」を東京都銀座のいわて銀河プラザで2月16日と17日に開催しました。

イベントでは、旬である釜石産早採りワカメや漁協等で製造した加工品の試食販売を行うと共に、油脂の酸化や塩分を抑制して加工研修で試作した「あたらしい新巻鮭」を試食してもらいアンケート調査を実施しました。

アンケートの結果は、7割弱の方が同じ価格なら既存の新巻鮭より「あたらしい新巻鮭」を購入したいという満足する回答でした。

予想していたよりも多くの方にご来場いただき、参加した女性部員は釜石の水産物をPRしながら来場者との交流を積極的に行ってきました。

ワカメ試食販売の様子

参加者で記念撮影

●全雌アユの作出技術開発について

岩手大学では、（一社）岩手県栽培漁業協会及び盛川漁協と連携して、全雌アユの作出技術開発を行っています。アユは広く内水面で養殖されている淡水魚で、塩焼きや甘露煮など食材として利用されています。特に成熟した雌アユは高値で取引されており1kg当たり千円を超えるため、雌を効率的に量産できれば生産者の利益につながります。

我々は、バイテク技術を活用して、全雌のアユを作ろうとしていますが、そのためにはまずニセ雄（XXの染色体を持つ雄）を安定的に作出することが成功の鍵となっています。

（一社）岩手県栽培漁業協会で生まれたニセ雄は、現在、1g程度となり盛川漁協の飼育池で順調に生育しています。

9月頃には80g程度まで成育し生殖巣も発達することから、その時点でニセ雄になっているかどうか判定することとなります。

三陸水産研究センターでは、そのニセ雄の精子を長期間保存できるような精子の凍結技術の開発にも取り組んでいます。

盛川漁協の飼育池

飼育中のアユ稚魚

今後、様々なプロジェクトが展開される中で、現場窓口としてサポートさせていただきます。

連絡先　**岩手大学三陸復興推進機構釜石サテライト**
〒026-0001 岩手県釜石市平田第三地割75-1
TEL : 0193-55-5691（代表）／FAX : 0193-36-1610
E-mail : kamaishi@iwate-u.ac.jp
URL : http://www.iwate-u.ac.jp/reconstruct/kamaishi/